



JAC GUNMA

公益社団法人

# 日本山岳会

群馬支部報

第2号

平成27年  
7月15日

平成27年度支部総会を終えて

## 新たな“山”求め 「山を知り 山に学ぶ」

公益社団法人日本山岳会群馬支部 支部長 田中 壯佑

平成27年5月20日、支部総会が開催されました。支部設立に尽力してくれた八木原前事務局長は、日本山岳協会会長として重責を担うことになり、2月より業務を引き継いだ根井新事務局長のもとで準備されました。平成26年度の事業報告と決算報告が承認されたあと、平成27年度の事業案および予算案が検討され可決されました。何よりも嬉しいことは、移籍者を含め新たに14名の会員を迎えたことです。

今回の総会は、実質初めての支部総会となりましたが、支部規約の見直し、役員の改選、事業計画の具体化、例会場所の見直し、支部報の発行などが検討されました。

平成27年度の主な事業計画は二つです。一つは、8月7～9日、群馬県庁で開催される“山フェスタ2015”の後援と参加です。支部としては、加藤会員が“グラフぐんま”に連載した群馬の山の“写真展示”と支部会員による“パネルディスカッション”で、日

本山岳会群馬支部の紹介コーナーも予定しています。支部として初めての企画で、来年から施行される国民の祝日「山の日」を前に、市民とともに“山に親しみ、山の恩恵に感謝する”場にしたいと思います。

二つ目は、設立時より検討してきた群馬県山岳連盟への加盟です。地元群馬の山岳会や登山愛好者との交流は、支部会員の山岳ライフをより豊かなものにしてくれると思います。今年も、上州武尊山スカイビュー・ウルトラトレイルやチャレンジキッズ谷川岳など群馬岳連の行事に参加を予定しています。都合のつく会員はぜひ参加して下さい。

“山を知る、山に学ぶ”は日本山岳会第4代会長でマナスル初登頂を隊長として指揮した横さんの言葉です。私たちは登山を楽しむとともに、安全登山や自然保護に心掛け、新たな“山”を求めていきたいと思っています。

### リレーエッセイ②「律儀なお二人」

支部設立に奔走し、土台を作ってくれた八木原さんが日山協会長に就任されました。群馬登山界の誇りです。第一次ダウラギリ遠征の時、ささやかなカンパをしたら、帰国後、尾瀬沼までダウラギリの大きなパネル、真鍮の水差し、手編み品を隊長名で届けてくださいました。なんと律儀かと思いました。40数年を経て日本山岳会群馬支部誕

生で初対面となり、その人柄に魅了されました。

日本山岳会の森前会長とは初対面の時、尾瀬のし尿処理のためのエネルギーに風力、水力が可能な、現地とすでに稼働中の三条の湯、上高地山研を律儀にご案内いただきました。30年近い歳月が経ち、再会した時は会長になられ、昔と同じ律儀さにあふれた人柄で大役を果たされました。山男の本命は「律儀」と思います。 (平野 紀子)

## 平成27年度支部総会

決算、人事、事業計画など  
全7議案を承認

## 旅費・弔意規定を新設

平成27年度の公益社団法人日本山岳会群馬支部の総会が5月20日、前橋市日吉町の前橋市総合福祉会館第2集会室で開かれ、事業や決算報告、役員の一部改選、規約の改正や新設など7議案が熱心な討議の後、承認された。

総会時の支部会員数は33人、当日の出席は11人、委任が16人だった。入会申し込み済みの田中規王さんもオブザーバー参加した。

## 1. 議案

## ①平成26年度事業報告、決算報告および監査報告

事業報告、決算報告および監査報告について原案通り承認された。

## ②平成27年度事業計画、予算案

実質的に支部創立以来初となるイベントの実施（ぐんま山フェスタへの参加）が盛り込まれた事業計画、予算案について原案通り承認された。

## ③役員の一部改選について

役員の一部改選について原案通り承認された。今年度役員は次の通り（敬称略、留は留任、新は新任）。

|        |          |
|--------|----------|
| 支部長    | 田中 壯佑（留） |
| 副支部長   | 新井陽一郎（留） |
| 副支部長   | 平野 紀子（留） |
| 会計     | 荒木 輝夫（新） |
| 監事     | 中山 達也（留） |
| 監事     | 黛 利信（新）  |
| 自然保護委員 | 北原 秀介（新） |
| 事務局長   | 根井 康雄（新） |

## ④群馬岳連との協力事業について

少年少女登山教室「チャレンジキッズ」と上州武尊山スカイビューウルトラトレイルの2事業について、引き続き群馬県山岳連盟に協力する件について、原案通り承認された。

## ⑤群馬岳連への加盟について

群馬支部として群馬県山岳連盟に加盟する件について、原案通り承認された。

なお、総会後行った加盟申請について、群馬県山岳連盟は6月の理事会で承認。正式加盟が決まった。

## ⑥規約改正・制定について

・群馬支部規約第8条（支部総会）に、委任を含め過半数の出席をもって成立する旨を付け加えることが、原案通り承認された。

・会務での出張に伴う旅費支給規定を定める件が一部条文の削除修正の上承認された。

・弔意規定を設ける旨の提案が原案通り承認された。

旅費規程の制定により、本部での会議や支部懇談会等で出張する場合の旅費（運賃、ガソリン代、高速料金等）の実費を支部が負担することとなる。

## ⑦新規事業「山フェスタ」「山の日制定記念プロジェクト」について

上毛新聞社が共催し、県庁で開催される山フェスタ（8月7～9日）および群馬岳連がみなかみ町などと進めている谷川岳周辺で開催される山の日記念プロジェクト（8月8・9日）の2事業に支部として参加する提案について原案通り承認された。

## 2. 事務連絡 支部会費の納入について

## 3. 事務連絡 例会会場の変更について

7月例会は前橋市新前橋町の群馬県社会福祉総合センターで開催。9月例会は高崎市城址公民館を予定し、以降試行的にこの2会場での交互開催とする。



総会後に予定されていた寺内会員のショートスピーチは会議時間が長引いたため、次回例会時（7月15日）に順延となった。

## 房総突端の山と海の幸 四支部合同懇談会に5人が参加

2月7・8日 千葉県館山市

第8回千葉・栃木・茨城・群馬四支部合同懇談会は2月7・8日の2日間にわたり、千葉県館山市で開かれました。群馬支部からは田中支部長、八木原事務局長、平野副支部長、中山さん、そして根井の5人が参加しました。

千葉館山と言えば房総半島の南端に位置する街。その中でも突端の洲崎に近い伊豆大島を望む海岸沿いのホテルが会場。新幹線から高速バスを乗り継いで参加した平野さんを除く4人は中山さんのマイカーに便乗しての参加となりました。長道中の往復も中山さんの運転におまかせ。本当にお世話になりました。

懇談会は森会長の参加も得て、総勢37人での開催。1日目は各支部からの報告の後、千葉支部による「房総半島分水嶺踏査報告」の講演会。そして夜は恒例の懇親会。各支部持ち寄りの地酒なども盛りだくさん。旨い魚に舌鼓を打ちながら、語らいの夜は更けていきました。



房の大山山頂で

2日目、所用で帰途に就く支部長を見送り、群馬支部4人は房大山登山に参加。房総半島突端の標高200m

足らずのピークと高をくくっていましたが、意外な急斜面にてこずることも。シノダケやマテバシイなど独特の植生におおわれたコースをたどり登った山頂からは、房総南端の山々から東京湾、太平洋と、山と海の眺めを堪能してきました。下山途中から雨も降りはじめ、急斜面のくだりでは千葉支部がフィックスしてくれたザイルのお世話にもなりました。

海辺の宿での日本山岳会四支部懇談会。海岸線からの小丘陵への意外なきつさもあるハイキングと、群馬では味わえないちょっぴりエキゾチックな体験も楽しめました。(根井 康雄)

## 「四国の山はなぜ美しい」 第31回全国支部懇談会(第3回小島烏水祭併催)

4月11・12日 香川県高松市

第31回全国支部懇談会は小島烏水祭を併催して4月11・12日の2日間にわたり香川県高松市を中心に

開かれました。全国20支部などから150人以上が参加。群馬支部は田中支部長、北原さん、そして根井の3人で参加しました。

11日午前の小島烏水祭は高松市街地に近い丘陵上の峰山公園で行われました。烏水祭後、会場に隣接する特設会場で讃岐うどんのご接待。思わずおかわりする味でした。

午後から会場を移し、全国支部懇談会へ。小島家菩提寺の東京常泉院住職による講演「小島烏水 高松と江戸」に続き、今



小島烏水祭併催で開かれた全国支部懇談会

回のテーマ「四国の山はなぜ美しい」に沿って、写真家によるスライド上映、支部会員によるシンポジウムと盛りだくさんな内容でした。

夜の懇親会も盛大で祝福の歌や阿波踊りなどアトラクションにも目を見張るものがありました。

翌日は飯野山(讃岐富士)に登り、讃岐うどんを味わう1日コースに参加しました。標高こそ500mに満たない讃岐富士ですが、讃岐平野を見下ろす山頂からの眺めも美しく、うどんは2軒をはしごして十分に満喫しました。ただ、せっかくの四国、もう一日日程に余裕をとって四国一美しいといわれる三嶺(みうね)コースに参加しておけばと後悔も。

(根井 康雄)

## 中村進特別展開催に寄せて

前橋出身の中村進は、北極、南極、エベレスト3極に到達した。早いもので、ヒマラヤで亡くなって7年になった。62歳だった。

中村進特別展は八木原図明館長の谷川岳山岳資料館で10月31日まで開催。木曜休館。

1993年の5月、13日間にわたりアラスカに2人で行き、Mt.Dicky (2911m) に登頂。マッキンリー山が山頂より真北に見える。

印象に残っているのは、ナイフの使い方が上手なことだ。グリーンランドで約1年生肉を食べていたからだろう。モーターでコンロが有るので、スーパーで肉を買い車座で、良く食べた。

(小野里節司)



中村氏(左)とMt.Dickyベースキャンプ



# チャレンジキッズ 登山体験教室

## スノーシュートレッキング 谷川岳山麓湯檜曽川

3月15日

3月14日夜、群馬県山岳連盟のジュニア委員会のメンバーらとともに、土合山の家へ。小泉会長はじめ旧知の前橋山岳会の仲間ほかジュニア委員会のメンバー全員が合流して翌日に備えました。

翌15日早朝。参加者が続々山の家前に集まってきます。やや雲が多いもののきりと冷えた風が心地良く、準備運動をして出発しました。

土合橋を渡ったところでスノーシューをつけ、雪上歩行スタート。最初はちょっとぎこちない子どもたちの歩みも、すぐに慣れ、しまった雪に快調に歩を進めます。湯檜曽川をさかのぼるにつれ、稜線の雲も晴れ、一ノ倉出合に着くころには、その全景が姿を現しました。その姿に子どもたちはもちろんサポート役のわれわれも感激しきり。今日の子どもたちの中で一人でも10年後20年後にあの壁を登ってほしいと思うことしきり。

一ノ倉出合ではビーコンを使った「宝探しゲーム」。子どもたちは何度も何度もトライし、「もう一回」コールでなかなか下山にかかれなほど好評でした。

今回は小中学生8人、保護者5人が参加。スタッフは7人でガイド、サポートにあたりました。群馬支部からは根井が参加。

(根井 康雄)



## 谷川岳田尻尾根

6月21日

6月21日（日）群馬県山岳連盟が主催し、日本山岳会群馬支部も協力し実施している子どもたちの登山教室「チャレンジキッズ」のサポートのため谷川

岳に行ってきました。

天気予報は雨。しかし出発前は曇りでした。この日は珍しく、ロープウェイのワイヤーを張り替え中とのこと…。地上に垂れ下がったワイヤーは、子どもの腕よりも太く、それをまたぎ越すという珍しい体験。もちろんロープウェイに乗ることはできず、徒歩で田尻尾根コースを進むことになりました。

湿度100パーセントと思われる中、足場が悪く滑って泥だらけになる子どもも。しかし、時より霧も晴れ、太陽も顔を出し、谷川の雄大な景色を見ることができました。

午後からの天候が心配されたため、熊穴沢小屋から引き返すこととなりました。雨具を着たり脱いだり、雨と汗でびしょりになった子どもたち。登頂こそかないませんでしたが、大自然を満喫する貴重な体験となりました。

群馬支部からは八木原、根井、田中（規）が参加。  
(田中 規)



## チャレンジキッズ これからの予定

今夏は8月と9月に谷川岳で沢登り・岩登り体験を行う。

8月23日（日）は一ノ倉沢下部での沢登り、9月27日（日）はマチガ沢大滝までを予定。



サポート参加できる方は根井まで連絡を。

また知り合いの家族などで山に興味を持っている方にもぜひ声かけを。参加費は各回3000円、別途保険料。締め切りは7月25日で先着15人。

詳しくは根井または岳連ジュニア委員会・前橋山岳会小泉会長（090-889-0128）まで。

## 日山協会長に就任して

八木原 圀明

このたび神崎忠男さんの後を受けて（公社）日本山岳協会の会長をお受け致しました。重い責任を感じますが登山界発展の一翼を担って参りたいと思います。

県山岳連盟の会長も兼務ですので忙しくはなりますが、登山界の事情は分かります。JACの会員であることなども生かして協調してやって参ります。来年から施行される国民の祝日「山の日」は登山界が一つになって大いに活動をあげ、登山が益々国民の生活の一部になるようにしましょう。

本年4月のネパール大地震も忘れてはいけません。新聞・ラジオ・テレビなどのニュースとして扱われなくなると忘れられてしまいかねません。地道に募金、支援活動も続けます。

群馬支部も県山岳連盟に加盟しました。勤労者



日本山岳協会新会長に八木原氏

（上毛新聞 6月1日付）

山岳連盟もあります。山岳会に入っていない登山愛好者の方が実は多いというのが現実です。全てが山仲間です。一緒に進みましょう。

## 最古の地方支部 その歴史に敬意

日本山岳会関西支部設立80周年記念式典に出席して

支部長 田中 壯佑

平成27年5月30日、神戸で行われた日本山岳会関西支部設立80周年記念式典に出席させて頂きました。全国32支部の中で、最も古くかつ立派な実績を残してきた関西支部の歴史に触れたかったことと、重廣支部長はじめ古い山仲間に出会えるのを楽しみに参加しました。

記念式典が神戸で開催されたことには意味があったようです。神戸は、明治期に神戸に居留した外国人によって始められた市民登山発祥の地であり、六甲山は藤本九三らが日本で初めて岩登りを始めた近代アルピニズム発祥の地です。そして日本を代表する登山家加藤文太郎と植村直己の出生の地、但馬の玄関口でもあるからでした。

関西支部は、昭和10年9月1日に最初の地方支部として設立され、大阪、京都、兵庫、滋賀、三重、奈良、和歌山の2府5県が支部地域でした。昭和36年の「東海支部」設立に伴い三重が移籍し、岡山、広島、四国4県が新たに加わりました。昭和61年には京都・滋賀が分離独立し「京都支部」、平成9年には「広島支部」、平成24年には「四国支部」が誕生し、現在に至っています。80年という長い歴史の

中には、様々な課題や困難もあったと思いますが、それらを乗り越え発展・維持してこられた関西支部会員の皆様にあたためて敬意を表したいと思います。

記念式典に引き続き行われたフォーラムでは、平林克敏会員の講演「孤高の登山家 植村直己を語る」と加藤芳樹会員らによる朗読劇「山の声～ある登山家の追想」がありました。出席者は皆話しに引き込まれ、二人の孤高の登山家の生き方に、“山に惹かれた男”の歓びや孤独を知るとともに、山の厳しさや登山の原点を考えさせられました。

夜、行われた祝賀会は、長期在籍者（支部在籍40年以上の個人71名、4団体）の表彰、記念事業である東部ネパール登山隊2016のメンバー紹介、北は青森、南は九州から参加した各支部の紹介があり、リピート山中氏らによる山の歌とトークを楽しみながら、参加者と懇親を深めてきました。翌日、六甲を中心に3コースに分かれて記念登山が行われました。

群馬支部は設立してまもなく2年が経過します。会員数は20名から34名に増えましたが、支部の歴史は始まったところです。

## ◆特集◆ 例会ショートスピーチ

## 山好きが選んだ職業

北原 秀介

私は、学生時代に地質学（火山岩）を専攻した関係から多くの日々を山で過ごすことになりました。特に卒業論文は「南八ヶ岳火山の構造と岩石学的研究」と称して溶岩の枚数を調べ、化学分析をしてどの位の深度のマグマ溜りから何時の時代に噴出したものか等々、訳のわからないことを研究していましたが、結局は出来る限り永い時間を八ヶ岳に居たくて始めたようなもので、1年半で南八ヶ岳の沢を全て踏査したものです。また、4年生の時には、当時計画されていた関越自動車道の関越トンネルの地質地表踏査を行うため、岩登りのできる地質屋を求めるアルバイトがあり、谷川本谷の支沢（オジカ沢、タカノス沢A・B・C等）のほぼ全沢や幕岩を調査するという山好きにとっては最高のアルバイトを得て楽しく過ごした思い出があります。

地質学科を卒業する大部分の学生は、中・高校の理科教師あるいは自治体の土木関係課に就職するのですが、私は「吉村昭の高熱隧道」や映画「黒部の太陽」にすっかり感化され、山岳トンネルの現場で働きたいと、建設関係に職を求め3年目からようやく希望した青函トンネルの現場に赴任しました。その後は上越新幹線中山トンネルや安房トンネルなど数多くの山岳トンネル現場で過ごし、その都度近傍の山登りをするのが楽しみな生活を送り、60歳半ばに至る現在も北海道（函館～札幌）新幹線や今話題の中央新幹線（リニアモーターカー）の路線計画などにたずさわっております。これらのインフラ建設が必要か否かは別として個人的には趣味と実益を兼ねたものと言えます。

以上のような経歴から第7回例会でショートスピーチの指名を受け、自然破壊に関わらざるを得ない仕事を持つ立場から言い訳を兼ねて、躊躇なく枠内

- ①山岳の成因と地質
- ②人為的な自然破壊
- ③自然による山岳破壊

のスピーチをさせていただいた訳です。

山岳部にトンネルを掘って生じる最も大きな社会的問題（被害）は、山岳が胚胎している地下水の変動です。これによって水系

を大きく変化させてしまい、生態系の破壊につながったり、集落の水源を枯渇させてしまう問題が生じます。これらの問題を100%回避してのトンネル掘削は、不可能であり、極力抑制できるルート選定が重要になります。では、土木工事の一大イベントとなると思われる中央新幹線のトンネル工事を想定してみます。

われわれ、山屋にとって最も関心が寄せられるのは、赤石山脈をぶち抜く長大トンネルの計画です。ルートは二軒小屋から小河内岳の下位を通り大鹿村に抜けるものです。この山岳は有孔虫や放散虫の死骸、あるいは海底火山の噴出物などが、現在の場所から数千キロ離れた南海の海底で静かに堆積しながら現在の場所までプレートで運ばれてきた堆積岩で出来ています。これらは運ばれて来る途中や現在の位置に至っても海底プレートの大きな圧力を受け、たくさんの断層や亀裂の入った状態にあります。したがって、亀裂には地下水が豊富に貯留されていますからトンネルを掘った時には膨大な出水が生じ、まさに「黒部の太陽」と同じ現象が起きてしまいます。ただし、現代は土木技術の進歩が著しいことから黒部の太陽ほど苦勞することは無いでしょう。そして山奥には集落も無いことからあまり大きな社会問題にはならないでしょうが、トンネルから出た水を大井川や小渋川に恒久的に供給することが必要と思います。これからの私は土木工事を十分に理解した山屋として多少なりとも公共工事に対して自然（山岳）破壊を最小限に抑えられるよう提言をしていきたいと考えております。

さて近年、私の登山活動は極めて少なくなっていますが、毎年アプローチの楽な初冬の山には行くよ



宝剣山荘から木曽駒ヶ岳へ（2014年12月）



う心がけております。昨年暮れは、木曾駒ヶ岳でした。2013年は常念岳、2012年は燕岳と中高年無謀登山でマスコミにのぼらないよう、悪天候でも簡単に撤退できる場所を選ぶよう心がけております。

(2014年11月19日)

## 山と無線

中山 達也

登山は、ごく一部職業にしている人を除き、趣味の範疇で登っている人がほとんどだと思う。しかし趣味と言っても年1、2回のハイキングという人から、ほぼ生活の全てという人まで様々な人がいる。

自分はどうかろうと振り返って見ると時代、年代でいろいろ変わってきたが、この12、3年が一番熱心に登っているだろう。

そのきっかけになったのが「山岳移動ランキング」という仲間を知ったことだった。

山頂あるいは山頂付近で無線交信をする。そしてその山名、標高、2.5万図名、市郡名、相手局のコールサインなどを報告する。ルールは1山1回のみ、同局は1日1回交信可能。これで山頂の数や合計標高などを競うのだ。

元々、登山もアマチュア無線も中学生の時に目覚めたが、自分の中で結びつくことはなかった。当時の無線機は大きく外に持ち出すことなど考えも及ばなかったし、年頃になり女の子のことが気になりだすと無線のことはすっかり忘れてしまった。

登山は学生時代、山小屋でアルバイトをするなど続けていたが、20代後半からは人並みに仕事、結婚、子どもなど、山を離れる時期が続いた。気が付いたら50代、子どもも相手をしてくれなくなり、登山を再開する。

ある時、上信国境の鼻曲山頂で無線交信していた人と話をしたのがキッカで山岳移動ランキングを知りハマってしまった。

定年後はミニバンに寝泊まりしながら、全国を歩いている。まず地域を限定し、その中の山を全部拾いだす。登路のある山は問題ないが、ない山は地図を読み、ネット電話などで地元の情報を集める。地図やガイドに記載がなくても登られている山も多い。

選択した山は全部登るつもりだが、最近是一人で

藪漕ぎ2日、長い岩場の登降などというのは現実的でなくなってきた。

会が認定している山の数には2万百余座、体力の続く限り楽しめそうだ。



最近登った「白髭岩」の原三角点

旧内務省が明治15年頃設置した三角点で、雲取山、米山と、この白髭岩で発見され、位置が当時のままなのは、この三角点だけだそうです。位置は赤久縄山頂の西北西約2.1km。藤岡市と下仁田町の境の1510m標高のピーク。北緯36度09分02秒東経138度49分16秒付近です。地図に表記はありませんが、白髭岩1512m。下仁田町の最高点になります。

(2015年3月18日)

### 私のおすすめ

## 山、そば、温泉

小野里節司

前橋は、日帰りの山に行くのに良い所だ。春に最近よく行く山に、信州坂城インター付近がある。

大林山(1333m)、鏡台山(1269m)、五里ヶ峯(1094m)等々、いずれも往復3時間ぐらい。

なぜ春が良いか？ それは山頂から、北アルプスの残雪の山々が、間近に展望できることだ。それに、坂城は旨いそば屋が多い。春は辛い大根(ねずみ大根)の汁がよい。昼頃下山し、そばを食べて、日帰り温泉があれば、三点セットのフルコース。これで幸せいっぱい。安いものだ。

使用しているガイドブックは、「北信・東信 日帰りの山」伊部高夫著(章文館)。



大林山頂から鹿島槍ヶ岳

## 事務局だより

### 【活動・事業・関係イベント報告】

〈2014年12月〉

■支部長会議・晩餐会（12／6 東京）

田中・平野・寺内・黛・斎藤・山本・根井が参加

〈2015年1月〉

■支部1月例会・新年会（1／21 前橋）

〈2月〉

■4支部合同懇談会（2／7～8 千葉館山）

田中・平野・八木原・中山・根井が参加

〈3月〉

■チャレンジキッズ（3／15 湯檜曾川一ノ倉出合  
往復）根井が参加 [関連記事4面](#)

■支部3月例会（3／18前橋）

・支部長メモ

・関東4支部合同懇談会・チャレンジキッズ（スノーシューでの一ノ倉出合往復）など報告

・総会に向け、役員の一部改選、諸規約の見直し、  
8月のぐんま山フェスタへの参加などについて討  
議し方向性を確認。

・ショートスピーチ（中山）

〈4月〉

■第31回全国支部懇談会・小島烏水祭（4／11～  
12 高松）

田中・北原・根井が参加 [関連記事3面](#)

〈5月〉

■27年度支部総会（5／20 前橋） [関連記事2  
面](#)

■関西支部80周年記念式典（5／30～31 神戸）

田中支部長が参加 [関連記事5面](#)

〈6月〉

■日本山岳会平成27年度通常総会（6／20 東京）

■チャレンジキッズ（6／21 谷川岳天神尾根）

根井・田中（規）が参加 [関連記事4面](#)

### 【今後の予定（7月1日以降）】

〈7月〉

■自然保護全国集会（7／11～12 東京）

■群馬県山岳連盟理事会（7／8 前橋）

■支部7月例会（7／15 前橋）

■上州武尊山スカイビュー・ウルトラトレイル（7

／18～20）

〈8月〉

■ぐんま山フェスタ2015（8／7～9 前橋・群  
馬県庁）

写真展示（パネルおよび大型スクリーン）・プー  
ス出展・群馬の山を語るパネルディスカッション  
など

■「山の日」制定記念プロジェクト（8／8～9  
谷川岳周辺）

■チャレンジキッズ（8／23 谷川岳一ノ倉沢）

〈9月〉

■支部9月例会（9／16 高崎）

■全国支部合同会議（9／26～27 東京）

■チャレンジキッズ（9／27 谷川岳マチガ沢）

〈11月〉

■支部11月例会（11／18 前橋）

〈12月〉

■年次晩餐会・日本山岳会設立110周年記念式典  
（12／5 東京）

### 【他支部からの異動】

河合 明宣（みなかみ町 千葉支部より）

### 【新入会員】

田中 規王（高崎市）

### 【寄稿のお願い】

山行報告・評論・随筆など会員のみなさまか  
らの原稿をお待ちしています。原稿送付先は下  
記のとおりです。

根井 康雄（日本山岳会群馬支部事務局長）

※日本山岳会各支部、各種山岳団体で支部報、  
会報等お送りいただく場合もこちらへお願い  
します。

日本山岳会群馬支部報 第2号 2015年7月15日

発行：公益社団法人 日本山岳会群馬支部

Tel 027-323-6713

〒370-0844 高崎市和田多中町11-31(田中方)

発行者：田中 壯佑 編集者：根井 康雄

印刷：上武印刷株式会社